



## 今回は平成28年度の事業計画についてお伝えします。

### ◇ 平成 28 年度の研究主題

過去 2 年間の研究蓄積を基盤に、「課題解決型研究」「国際貢献活動」を二本柱とした活動を、「授業改善」「国際交流」「キャリア教育」の三事業を通じて支援するプログラムを展開する。目標とする「国際貢献で世界を変革するリーダーの育成」を達成し得る効果的な方策を研究開発し、次年度以降の SGH 事業の継続を図る。

### ◇ 課題解決型研究（課題研究）と国際貢献活動（貢献活動）

地球規模での解決が必要な課題（グローバルイシュー、地球的問題群）について、国連の「2030アジェンダ」を参考に学び、グループで研究課題を選定する。その課題の解決策を研究し、具体的な提言にまとめ発表する。さらに提言の中から、具体的な貢献活動に適した内容を選んで実践活動に移し、“持続可能な開発”に寄与する。

1 年生は研究入門講座で研究に関するスキルを学ぶことから始める。課題研究の具体的なテーマに関しては、各種講演会、さくら塾、リサーチツアー、大学模擬講義への参加などの外部と連携したキャリア教育事業、「現代社会」や理科基礎科目をはじめとする様々な授業を通じ、興味関心を高めた上で決定する。

2 年生は昨年度学んだ知識や技能を基盤にし、よりグローバルな視座から研究を深化させ練り上げた提言を発表する。その際、英語によるプレゼンテーション（ポスターセッション及び口頭発表）を行う。3 年生は昨年度実施した英語プレゼンの内容をさらに深め、学校全体及び外部に向けての研究発表を行ったのち、各自のキャリアプランに応じた進路開拓を積極的に推し進める。

1・2 年生ともに、主に「総合的学習の時間」において研究活動を実施する。貢献活動については、大学・企業・行政機関・NPO等の外部団体との連携、生徒会や各種委員会、部活動としての参加を基本として計画を策定し実施する。

#### （1）具体的な研究・貢献分野

下記の研究・貢献分野は、「2030アジェンダ」にある 17 の具体的な開発目標を 4 分野にまとめたものである。テーマはおおむね以下の 4 分野から選択するものとするが、「地球規模の課題解決」「持続可能な開発」に沿うテーマであれば、各グループが自ら開拓してもよい。

##### ア 産業と社会の開発

貧困の解消。地域社会の保全。そのための産業・社会・技術・システムの開発。

##### イ 人の暮らし・生命

安全で健康的・文化的な生活の保障。医療・教育・福祉の充実。

##### ウ 地球環境の保全

森林や海洋などの自然環境の保全。気候変動・生物多様性への対応。

##### エ 社会を支える基盤

暮らしのための基盤整備。資源・エネルギー管理、防災・インフラ整備。

#### （2）評価の方法

1 年生課題研究は日本語レポートを作成した上で、発表会（日本語）を実施する。2 年生課題研究は英語でのポスターセッション及び発表会を実施する。発表会の内容、レポートやポスター等の成果物は、本校職員及び連携機関の専門家（アドバイザー等）からの評価を受ける。また、課題研究を進行させていく過程で、生徒一人ひとりの活動を観察し、適正に評価する方法を研究する。

完成度の高い研究に関しては、外部団体の審査を受けることを積極的に促し支援を行う。昨年度は、SGH 課題研究の成果を生かした生徒の作品が、野村総研論文コンテスト入選作品、慶応大学論文コンテスト最終審査対象作品に選ばれた。今年度は、日本考古学協会及び九州国立博物館考古学フォーラムでの研究発表（礼文島国際共同学術調査の成果）、日本霊長類学会での研究発表（霊長類フィールドワークの成果）を行う予定である。

今年度より行う国際貢献活動に関しては、指導にあたる本校教員のほか、連携する大学や企業、NPO 法人等の専門家や地域・保護者代表等、外部有識者からの評価や助言を受けることとする。

## ◇ キャリア教育及び国際交流

課題研究や貢献活動を推進する上で、生徒一人ひとりの知的好奇心や公德心を喚起し、課題研究や貢献活動に向かう意欲をおのずと促進するような働きかけとして、生徒全員を対象とした講演会のほか、キャリア教育、国際交流に関する諸事業を下記のように用意する。

### ア 講演会

グローバル課題や国際貢献をテーマとした講演会を以下のように設定している。

- ① 平成28年6月21日 実施予定 演題「“やさしさ”を広げて学校を創る」  
講師： 若尾 守康 氏 (ジースプレッド株式会社代表取締役)
- ② 平成28年9月20日 実施予定 演題「世界一のサプライヤーをめざす」  
講師： 石垣 幸二 氏 (沼津港深海水族館館長)

### イ キャリア教育

#### ○社会連携セミナー「さくら塾」

大学や企業、行政機関等の各分野で活躍中の方々を講師とする希望者対象講演会を、社会連携セミナー：「さくら塾」と題して企画する。グローバル課題、国際貢献、持続可能な地域開発等をテーマとする。現在の予定としては下記の講演を用意している。

- ・「ゴリラがつなぐ人と森」 中部学院大学准教授 竹ノ下祐二 氏
- ・「持続可能な地域医療 ～心の健康から考える～」  
県立多治見病院医師 早稲田 紘士 氏
- ・「最高の授業を世界へ届けよう」 NPO法人 e - E d u c a t i o n  
佐藤 建明 氏

#### ○リサーチツアー

大学や研究機関を訪問し、施設見学や実験、フィールドワーク、語学セミナー等を受講する。現在は下記のとおり、企画を進めている。

- ・看護・医療体験セミナー 中部学院大、朝日大、村上記念病院
- ・先端科学リサーチツアー  
東大先端科学技術研究センター、早稲田大学先端生命医科学センター  
名古屋大学工学部、岐阜大学応用生物科学部
- ・企業見学  
野村総研、関市内企業
- ・語学講座、ワールドカフェ  
名古屋外国語大、中部学院大、朝日大
- ・霊長類学野外実習&セミナー  
京都大学霊長類研究所、日本モンキーセンター、東山動植物園等

#### ○「未来創造週間」

大学での研究、将来の職業や将来の生き方を考えるための学年一斉の催しを「未来創造週間」と銘打って、各学年で実施している。いずれも、グローバル課題や国際貢献、持続可能な開発をテーマとする。

- ・グローバル職業セミナー 1年生全員対象  
様々な職業分野で活躍する社会人8～9名を講師とする。
- ・ホームカミングデー 2年生全員対象  
各界で活躍する関高同窓生8～9名を講師とする。
- ・校内オープンキャンパス 3年生全員対象  
大学研究者8～9名を講師とする。本年度は昨年度に引き続き金沢大学に依頼。

### ウ 国際交流

国際交流の一環として、英国ヘイドンスクールとの姉妹校提携、海外・国内のフィールドワーク、オンラインセッション、留学事業等を推進している。

#### ○英国のヘイドンスクールとの姉妹校提携

ロンドン郊外に位置するヘイドンスクールとは、昨年度、正式に姉妹校として提携、本校教員及び生徒が訪問し、グローバル課題やたがいの文化・社会に関する意見交換・交流活動を行った。今年度も希望者を募って現地へ赴き、グローバル課題や国際貢献に関する議論、意見交換を行いたいと考えている。

#### ○海外フィールドワーク

一昨年度は関市刃物産業連合会関係者、関市担当職員の刃物PR事業に同行し、シンガポールで研修を行った。現地でのPR活動に参加したほか、シンガポールやマレーシアで異文化理解・多文化共生の現状について学んだ。

昨年度はベトナムを訪問、カイインダストリー社のハノイ工場を見学、さらに現地社員との交流会に参加し、関市の企業のグローバル展開について学んだ。また、中部学院

大が現地で支援事業を行っているダナン医薬技術大を訪れ、支援の状況やベトナムの保健衛生・医療行政の現状について学んだ。受入先との調整を行い、今年度も同様の企画を実現させる予定である。

○国際共同学術調査（礼文島フィールドワーク）

一昨年、昨年の2カ年にわたり、北海道大学、アルバータ大学（カナダ）、アバディーン大学（英国）、東京大学、慶応大学等が主催し、世界各国の研究者や学生が集う国際共同学術調査に参加した。調査の場では英語が公用語であり、参加した生徒は他国の研究者や学生と英語でコミュニケーションを図る。

現在までに、過去数千年に渡る気候変動と人類の環境適応の歴史が明らかにされつつある。今年度は、今日起きている気候変動をめぐる諸問題（漁業被害・災害等）や、貴重な文化遺産や自然を生かしたツーリズムや観光開発について学ぶ予定である。

○インターネットを利用したオンラインセッション

昨年度、世界各地で教育支援活動を行っているNPO法人e-Educationの協力により、フィリピンのミンダナオ島とのインターネットを介したオンラインセッションを行い、本校生徒も英語を使ったコミュニケーションに取り組んだ。今年度もフィリピンやインドネシア、ガーナ等の国々との交流を計画している。

**エ 外部事業への参加**

次世代リーダー塾、夢のたまご塾、岐阜県西北部へき地医療センター体験セミナー、化学オリンピック、数学オリンピック、科学の甲子園、野村総研論文コンテスト、慶応大学論文コンテスト、各大学主催の実験講座・体験講座、オープンキャンパス、研究成果の学会発表等への積極参加を促し、支援を行う。他者と交流することにより知見を広げ思考を深める機会、自己の考えを表現し到達点や課題を確認する機会と位置付ける。

**◇ 授業改善**

日常における学習活動の中心となる授業は、最も時間を費やすものであり、その改善は全生徒にとって大きな効果を生むものと考え。グローバル人材の育成を意識した日常の授業改善を以下のように行う。

**(1) アクティブ・ラーニングの推進**

各教科で言語活動の充実を図る授業改善に取り組むとともに、コミュニケーション能力や論理的思考力、表現力の育成に取り組む。そのために最も適した方策と考えられるアクティブ・ラーニングの研究を推進していく。

**(2) 英語力の伸長**

**ア** TOEFL Junior Comprehensive(中高生版TOEFL・4技能試験)の受検

**イ** 大学と連携して英語力の伸長を図る取組

**ウ** 2年生課題研究の英語でのポスター作成、英語プレゼン準備

**エ** 国際交流事業等の英語でのプレゼンテーション発表

**オ** ICT（電子黒板、タブレット端末、電子教科書等）を活用した授業の開発

**(3) 校内研修**

**ア** 定期的実施する各教科会や学年ごとの教科担当者の打合会及び相互の授業参観において、授業内容や授業形態を研究→実践→反省（PDCA）し、指導内容や指導方法を改善する。その際、有効なアクティブ・ラーニングの方法を模索していく。併せて、年間指導計画やシラバスの見直しも行う。

<アクティブ・ラーニングを推進する授業形態の例>

・電子機器（パソコン・タブレット端末・電子黒板等）を利用した授業

・コミュニケーション力・言語活用能力を高める授業（ディベート等）

・課題発見・解決力を高める授業展開

**イ** 教科ごとに研究授業を実施する。また年2回（6月・11月）の校内職員向けの授業公開週間（2週間ずつ）を設定するとともに、生徒による授業評価及び教員による相互の授業評価を行い、主題実現に向けた職員の授業力向上を図る。

**ウ** 先進校視察の報告会を職員会議や教科ごとに実施する。また職員対象の外部講師による研修会も実施して職員の授業力向上や意識改革の糧とする。

**(4) 教員研修の充実**

先進的研究や人材開発の分野で成果を挙げている学校・企業などの関係機関を、各教員自ら調査し、研修訪問し研鑽を積む。過去2年間の研究蓄積を基盤に、「課題解決型研究」「国際貢献活動」を二本柱とした活動を、「授業改善」「国際交流」「キャリア教育」の三事業を通じて支援するプログラムを展開する。目標とする「国際貢献で世界を変革するリーダーの育成」を達成し得る効果的な方策を研究開発し、次年度以降のSGH事業の継続を図る。